

交換留学報告書

氏名	伊藤 結稀
学部/研究科・学年（留学時）	法文学部人文社会学科 2 年生
留学国名	ルーマニア
留学期間	5 ヶ月
実施年月	2024 年 2 月 9 日～2024 年 6 月 26 日

1. はじめに

私は 2024 年の 2 月から 5 か月間、ルーマニアの首都ブカレストに留学し、ブカレスト大学で学んだ。ルーマニアは東欧にあり、旧共産主義国であるので、首都ブカレストは共産的な建物が多く残っている街である。留学前はインターネットで調べてもあまり情報が得られず、不安なこともあった。しかし、現地では、日本で経験できなかった様々な経験が出来、貴重な学びとなった。また、海外派遣長期奨学金をいただいたことで、留學生活を満喫することが出来た。ご支援いただきありがとうございました。



画一的な建物が多く残る街並み

2. 留学をしようと思った理由

高校生の時に課外活動でフィリピンを訪れた。初めての海外であったフィリピンで日本と異なる文化や環境に衝撃を受けたことから、もっと様々な国の文化を現地で肌で感じたいという思いが強くなった。このことから、大学では、今まで訪れたことのないヨーロッパ圏の国に留学したいと考えるようになり、留学を決めた。

3. その大学を選んだ理由

私の専攻は英語言語学であり、日本語と英語について日々学んでいる。ブカレスト大学の外国語学部には日本語学科がある。私はいつも母語話者として日本語に向き合っているが、母語話者でない人からみた日本語の視点を学びたいと思い、ブカレスト大学の外国語学部

に留学することを決めた。

4. 留学先で学んだこと（授業の様子）

大学では韓国文学の授業を学んでいた。毎回、韓国文学作品の英訳を1つ取り上げ、その題材について、フェミニズムなど様々な観点から学んだ。毎回英語の本を一冊予習で読む必要があった。英訳された文学、英語の本を読む経験が初めてだったので、分からない言葉がたくさんあり、全部読むのに時間がかかり大変だったが学びになった。

また、日本語学科の文化人類学の授業とビジネス日本語の授業にボランティアとして参加した。教科書の音読をしたり、生徒の質問に答えたり、日本文化について発表したりした。日本人の私が普通だと思い、気づかなかったことを質問されて驚くことが多くあり、日本語について新たな視点から見つめ直すきっかけとなった。

日本語学科の先生とともに現地の小学校を訪れ、日本文化に関する授業のお手伝いもした。生徒たちが、ピカチュウをみて歓声をあげていたり、知っている日本食を先生に聞かれて、「スシ!」と答えていたりする様子を見て、日本文化が世界に広がっていることを実感し、日本文化を誇らしく思った。

多くの学生がルーマニア語だけでなく、英語も流ちょうに使いこなすことが出来ていた。さらにそこから日本語や韓国語などの第3言語の勉強に励む様子を見て、私も英語の勉強に励もうと刺激を受けた。

5. 現地での生活（住まいや食事）

私は寮で生活していた。寮費は月約1万円で、ルームメイトは日本人だった。大きなショッピングモールが近くにあり、地下鉄やトラムの駅も近く、立地の良い寮だった。寮では、中国、韓国、ニカラグア、アゼルバイジャン、モルドバなど多様な国出身の生徒が住んでいた。聞こえる言語も英語、ルーマニア語、スペイン語など多種多様であり、多文化を毎日身近で感じる事が出来た。しかし、常にシャワーの排水にボウフラがいたり、温水が出ないことも多かったりしたので、寮の住環境は決して良いとは言えなかった。

食事については、主に自炊を行っていた。ルーマニアは物価が安く、特に野菜や果物はとても安いので、それらと日本の調味料を使って日本食をつくっていた。また、ルーマニアには日本とは少し違った対面のパン屋さんが多くあり、そこでパンを買うこともあった。友達とレストランへルーマニアの伝統料理を食べにいった。



伝統料理サルマーレ



ルーマニアスタイルのパン屋

6. 留学先で楽しかったこと、辛かったこと

留学先で楽しかったことは、様々な国の友達と交流できたことである。自国の文化を紹介しあったり、考え方の違いに驚いたり友達との会話に多くの刺激を受けた。そして、友達とルーマニアの地方都市等へ旅行に行ったことも思い出である。また、色々な国に旅行に行ったことも楽しかった。ルーマニアから他のヨーロッパの国への航空券がとても安く、シェンゲン協定によりパスポートコントロールの必要がなかったことから、イタリアやスペイン、デンマークなど、計 10 か国に訪れることが出来た。それぞれの国の文化を肌で感じ、EU 連合のつながりの深さも感じる事が出来た。

辛かったことは、寮の設備の不十分さであった。先述したような不便さは常にあったが、特に、寮の洗濯機すべてが壊れているのに 3 か月間直らなかったことと、40 度を超える気温の中、冷房のない部屋で過ごさなければならなかったことが特にしんどかった。



ドラキュラで有名なブラン城



初めての一人旅で訪れたヴェネツィア

7. 終わりに

日本にいと、ルーマニアはあまりなじみのない国だと思う。しかし、学割で地下鉄の1か月定期が約300円になったり、国内の鉄道切符が90パーセントオフで買えたりと、学生にやさしく、暮らしやすい国であった。留学準備中や留学中、様々なトラブルがあったが、指導教員の先生、国際連携課の皆様に助けていただき無事に充実した留学生活を送ることが出来た。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



国民の館（独裁者チャウシェスク氏の宮殿であった。）